

## ☆視 点

**2013年の中国繊維産業**

2013年の中国の繊維産業は、いくつかの課題を抱えながらも内外需とも堅調に推移、繊維業況は比較的安定的に推移した。以下、主要な繊維産業に関する指標である。

## ① 繊維生産

2013年の主要な繊維品生産は、化学繊維が前年比7.9%増の4,122万ト、紡績糸は7.2%増の3,611万ト、織物は4.6%増の683億m、衣類は1.3%増の271億点といずれも増産となった。但し、2013年は、従来の高い成長から、1桁台の増産という「低成長」の段階に入った。

繊維生産の推移をみると、2013年の第1～2四半期はいずれの段階も2桁増の伸びを維持していたが、下半期に、産業用繊維関連の品目以外は全ての段階の伸びが鈍化した。衣類生産については、下半期にゼロ成長またはマイナスとなった。産業用繊維製品は引続き好調で、生産量は、前年比11.9%増の1,130万トとなった。

2013年の繊維消費を三大用途別にみると、衣料用、家庭用、産業用の比率は、48：29：23となり、非衣料が過半となった。

また、規模以上企業（3.9万社）の繊維産業の工業増加値（GDPに相当）は、前年比8.3%増と中国全体のGDP成長率の7.7%を上回った。

## ② 繊維品輸出

2013年の繊維品輸出は前年比11.2%増の2,921億ドルと前年に比べ、7.9ポイント伸びが加速した。伝統的な市場であるEU、米国、日本向けのシェアがいずれも低下する一方で、FTA締結の効果もあり、アセアン向け輸出が急拡大している。2013年のアセアン向け繊維品輸出は前年比28.3%増の347億ドルとなった。

## ③ 繊維産業への投資額

繊維業界への投資は引続き活発化している。2013年の繊維業界の規模以上（500万元以上のプロジェクト）の固定資産投資額は、前年比17.3%増の9,140.29億元となった。

化学繊維業界への投資額は21.8%増の1,030億元となった。

#### ④ 繊維企業の業績

規模以上繊維企業の主要業務収入は前年比 11.5%増の 6.38 兆元（約 110 兆円）となった。利益は前年比 15.8%増の 3,506 億元となった。売上、利益とも 2 桁増を維持している。利益の伸びは、2013 年上半期に比べ、0.8 ポイント鈍化した。販売利益率は 5.49%と前年に比べ 0.2 ポイント上昇した。セクター別には、麻織物、毛紡績、ニットなどの利益が好調であった。

化学繊維企業の主要業務収入額は前年比 8.5%増の 7,282 億元、利益は 18.3%増の 260 億元となった。

#### ⑤ 繊維品内需

内需は好調に推移した。2013 年の社会消費総額のうち、衣類・靴・帽子類の販売額は前年比 11.6%増の 1.14 兆元（約 19 兆円）、衣類販売額は 11.5%増の 8,180 億元（約 14 兆円）となった。その伸び率は商品総額（12.7%増）をやや下回っている。

2013 年の特徴では、販売チャネルとして、インターネットショッピング販売の拡大があり、中国紡織連合会では、衣類、家庭用品等繊維関連品目のオンラインショッピング規模は 2013 年に 5 千億元規模にまで達していると推定している。

#### ⑥ 2013 年の繊維産業の特徴・2014 年への課題

##### A) 綿花の内外価格差

中国政府の綿花に対する補助政策、備蓄政策などがあり、国内の輸入/国内価格差が顕在化、4,000 元/トンを超える価格差が発生、2013 年の綿糸輸入は前年比 37%増の 210 万トンにも達した。そのため、綿紡績企業の業績の悪化や化繊需給・価格に影響を与えた。

##### B) 大企業への集中が高まる

労働コストの上昇、綿花の内外価格差など中国の繊維産業を巡る事業環境が悪化する中、発注は、効率性に優れる大企業に集中したことで、中小零細企業の淘汰が加速するなど企業構造の改革が進んでいる。

##### C) 環境規制の強化

省エネ、排出削減、回収・二次利用など、中国政府の環境規制、国民の環境意識への高まりによって、新たな需要が生まれつつある。

D) 内需市場、特に農村市場の拡大

中国では、農村人口が全体の4割を占めるにもかかわらず、消費額では都市部の7分の1に過ぎない。今後、農村部の都市化進展、生活水準の向上から、中国の繊維内需のうち、衣料用、家庭用の内需拡大を目指すには農村需要の喚起がポイントとなる。

E) 化学繊維産業の構造調整

ここ数年の供給過剰、綿花価格の乱高下、合繊原料問題などから化学繊維産業構造の調整が進んでいく。

(担当：業務調査グループ 鍵山)